

<p>日本介護福祉士会 千葉県支部会報</p> <p>に じ</p>	<p>VOL 6 6</p> <p>2 0 0 7</p> <p>9. 1 6</p>	<p>発行 日本介護福祉士会千葉県支部 千葉県介護福祉士会 会長 山本英清</p> <p>編集 広報委員会・広報委員長</p> <p>事務所 〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-3 千葉県社会福祉センター3階</p> <p>TEL・FAX 043-248-1451</p> <p>TEL・FAX 043-248-1515</p> <p>mail kai5nji@poem.ocn.ne.jp</p>
--	--	--

千葉県介護福祉士会 新たなスタートへ

平成19年4月22日、千葉県介護福祉士会通常総会が開催されました。介護福祉士法制度改正の話題も聞かれる中、多くの会員の方々に出席を頂きました。また、会としても平成19年度は、昨年度まで会長を担っていただいていた野口渉子氏から、新会長として山本英清氏へと引き継がれるという大きな動きもある年となりました。千葉県介護福祉士会として、また介護福祉士としての理念は引き続き変わらずに、引き継がれた山本英清会長のリーダーシップのもと、当会を皆で盛り上げ、より良い介護福祉士会に作り上げていきたいというエネルギーあふれる総会になりました。

当日は午前と午後の部に分かれ、厚生労働省介護技術専門官 石原美知氏による「介護福祉士法等の一部を改正する法律について」と、社会福祉法人にんじんの会理事長 石川治江氏による「リスクマネジメント介護現場の現状と対策」としてお二方に講演をお願いしました。両方とも今の時代に関心のあるタイムリーな話題設定ができ、今後も引き続き学びの必要性も感じられました。今年度も会としてまたブロック活動の中でも研修会を積極的に開催します。こちらも是非多くの方々に参加していただきたいと思います。

(新会長 山本英清会長のコメントは次頁)

山本英清新会長あいさつ

今年度より千葉県介護福祉士会の会長に就任いたしました山本でございます。野口会長の後を引き継ぐにあたり、大変遅くなりましたが就任の挨拶申し上げますとともに、会員の皆様方より一層のご支援賜わりますよう、切にお願い申し上げます。

さて、介護福祉士は1987(昭和62)年に社会福祉士及び介護福祉士法が制定されて以来、2006(平成18)年9月末、登録者数は約548,000人に達したと報告されております。近年では介護施設等の介護職員は介護福祉士に統一すると方向性が示され、訪問介護員2級の方などは早急に介護福祉士の資格取得をすると励んでいるところですから、一層増加の傾向をたどることでしょう。しかし、その目指す介護福祉士はどのような状態で業務にあたっているのでしょうか。社会では様々取り上げられていますが、私が職能として危惧するのは以下の内容です。

「介護支援専門員実務研修受講試験合格者は介護福祉士が一番多い」「離職率が高い」

これらをもう一步整理すると

介護福祉士の専門性及び役務内容に関する社会的評価の不足

現任実務支援環境の不足

にあると考えております。

まさに、介護という精神熟練を要す人間的(人の手による)他者援助に対し、やりがいを見出し使命感に燃える熱き力を、支えきれない環境といえるのではないのでしょうか。そのためには、介護福祉士の専門性を広め、社会に評価されることが不可欠と考えます。そこで専門性に視点を当ててみたいと思います。専門性には以下の条件が求められるとされております。

その分野における専門(知識・技術)に関する共通性、等質性、同一性が存在すること体系的理論:同じ知識・技術を持ち合わせている

科学的、技術的な実践があり、社会的に評価を受けていること社会的承認:社会に認められる

系統的な研究や努力により専門性の保持・発展が図られていること専門性を深める:研究

専門職業者としての承認された倫理的諸規準を保持すること倫理綱領、免許制や業務独占

従って、これらに沿った現任者支援が会務の主目的に他ならないでしょう。それにはまず研修ではないかと考えます。それも介護福祉士の実務援助実践に対し、ロールプレイング・グループ討議・事例研究を活用したプログラム。それは新卒介護福祉士からリーダー・管理職へと進む、「根~幹~枝・葉」そして「実」になる体系的プログラム研修すなわち生涯研修です。そしてその「実」が介護福祉士の実践研究になるのではないかと考えます。

他方、リアリティーショック、職場内の人間関係、燃え尽き症候群、介護職員の人権を支える職場内外のサポートネットワークが必要と考えます。それはスーパービジョンと言われる場合も多いでしょうが、自分の介護観を言い合える場作りこそがそれを可能とするのではないかと考えます。そのことは研修などの際、自らの実務援助実践を他者に表出し意見交換することから始まるのではないのでしょうか。そこにネットワークが生まれ、ブロック活動によって一層育まれるような事業運営をしてまいりたいと考えております。

平成 19 年度第 1 回在宅部会研修会報告

「適正な訪問介護サービスになっていますか？」

～利用者の自立した生活を支える専門職として～

講師：松下 やえ子 会員（千葉県介護福祉士会理事）

7月28日、社会福祉センター5階大会議室にて、会員、一般参加者、スタッフ含めて64名の参加で、第1回在宅部会研修会が開催されました。介護を取り巻く状況、とりわけ訪問介護の危機的状況の反映なのか、熱気のある会場となりました。

コムスンの問題は介護全体のかかえている問題の反映でもあり、「ワーキング・プア」と呼ばれる現象は、劣悪な介護職の現状でもあり、介護職離れが進んでいます。講義では介護崩壊？の実態にふれ、更には、そうした中で、私たちが専門職としてどのように働いていくのか。「訪問介護」とは何か。「訪問介護」の基本のキを、人員・設備及び運営に関する基準にそって、振り返っていただきました。

老計第10号や、老企第36号、老振第76号など訪問介護を行っていく上で、絶対にはずせない法的根拠と Q&A のポイント、医療行為、監査と情報の公表の違いなど整理されました。

参加者からは、解っているつもりでも、あやふやだったところが、しっかりと整理されたとの声や、職場内研修で伝達していきたいなどの声が聞かれました。

今後の在宅部会への要望としては、在宅サービス現場における記録の取り方や、アセスメントの方法などを学びたいとの声が多く聞かれました。とにかく、職能団体として、こつこつと現場の介護職の質の向上につながる研修を組んでいかななくてはいけないと感じた一日でした。部会スタッフ一同、今年度は後2回位研修を準備していますので、会員のみなさん、一緒に頑張りましょう。 (K)

予告

訪問介護フォーラム2007

日時 2007.12.9(日)10:00～16:00

場所 千葉県農業会館大ホール（千葉駅下車）

テーマ：サービス提供責任者の地位の確立

9月25日締め切りにて、「サービス提供責任者の実態アンケート」を事業所用とサービス提供責任者用の二種類に分けてアンケートを実施しています。ご協力をお願いします。

千葉県介護福祉士会研修会報告

平成 19 年度第 1 回

「心と体の養生法のすすめ」 ～東洋の知恵と気功法を学ぶ～

講師 羽根 善弘氏 (小石川整体・気功院院長)

3 年前より当会開催の研修会では、1 年に 1 回会員の方へのメンタルヘルスを目的とした研修を行ってきました。今回は、小石川整体・気功院院長である羽根善弘氏をお招きし、会員の皆様の日頃の疲れを少しでも軽くして頂くよう企画いたしました。

午前の講義では、総論として自然との調和（同調）についてお話され、人～社会～自然が連携・循環することによってできるバランスのある状態がいかに大切であるかを学びました。また各論では、ストレスをためない工夫やストレスに強くなる生活術を教えてくださいました。まず今のライフスタイルが自分に合っているかどうかを知って、その上で工夫し対処方法を考えることが重要であり、東洋の知恵の学びを通して納得させられることばかりでした。

午後の実技では予定として気功法でしたが、開始より参加者からの多くの質問が先生に寄せられました。さすがに参加者の皆さんが目的意識を持って参加されていると感心いたしました。参加者自身のことから家族または利用者の不調な部位への改善策等・・・時間を気にしながらもほとんどの質問に応じて下さり、簡単にできるツボの学習で時間が足りなくなってしまいました。気功を期待された方にとっては残念でしたが、アンケート結果からは多数の方が満足され、次回の企画を望む意見も多く聞かれました。

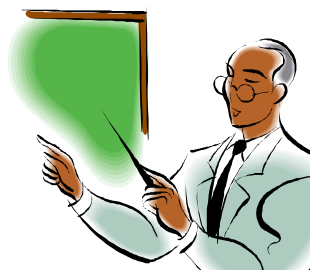
今回の研修は、スペース上定員数をいつもの半数にしたためお断りした方もかなりあり申し訳なく思っています。今後は各ブロックへの伝承研修にしていきたいと考えています。今回参加できなかった方も次回は是非ブロック研修等で体験して頂くことを願っております。

平成 19 年度第 2 回

「生活のなかでの口腔ケアの基本」

講師 近藤いさを氏

(日本大学松戸歯学部付属病院 歯科衛生士)



口腔ケアについては、各ブロックでの研修会等で学習してきましたが、中央での研修会としては今回初めての開催となります。講師の近藤いさを氏は、千葉県介護支援専門員指導者の中で唯一の歯科衛生士でもあります。(次頁へ続く)

昨年の介護保険法改正に伴い、介護予防通所介護・介護予防通所リハビリテーションサービスにおいて、口腔機能向上加算が導入されました。口腔機能が低下しているまたそのおそれのある利用者に対し、歯科衛生士等が口腔機能改善のために適切なサービスの実施・評価等の一連のプロセスを実施した場合に加算されます。

前半の講義では、口腔の構造・機能から始まり日常の口腔ケアについての基本を学びました。私たちは、日頃から利用者の口腔ケアに視点を持ってしまいがちです。そこで講師よりまずは自分自身の口の健康状態を知ろう！ということで、後半の演習では、参加者がペアになり真っ赤に着色したお互いのプラーク（歯垢）の除去に挑戦しました。

2名の講師が加わり、ブラッシングテクニックを丁寧に教えていただきました。

利用者の立場を体験することによって、口腔ケア時の不安等を感じることができ、今後の仕事に活かせる演習でした。また、最後に施設等では食前に行われている健口体操（嚥下体操）を習得し終了しました。口腔ケアと笑顔の関係、またその大切さを再認識した研修でもありました。皆さん、お疲れ様でした。

(研修委員 高橋 仁美)

ご案内

平成 19 年度 第 2 回介護支援専門員実務者研修会

好評の第 1 回に
引き続き・・・
お見逃しなく！

日 時 平成 19 年 10 月 13 日 (土) 10:00 ~ 15:30 (受付 9:30 ~)
場 所 千葉県社会福祉センター 4F 会議室
内 容 「専門職の連携の取り方」(サービス担当者会議)
講 師 千葉県介護支援専門員指導員
特別養護老人ホーム 波岡の家 施設長代理 山本てつ子氏
受講料 会員・準会員 500 円 一般 3,000 円
定 員 80 名
申し込み先 千葉県介護福祉士会事務局

ブロック報告

東葛ブロック 第3回ブロック研修報告

3月25日(日)『高齢者虐待の実態』と題し、松戸市介護支援課介護予防推進担当室 保健師 井上スエ子氏を講師に迎え、松戸市における高齢者虐待防止の取り組みのひとつである松戸市高齢者虐待防止ネットワークの構築を中心に実例を用いて説明をしていただきました。実例の内容は、ヘルパーの気づきから支援が始まったケースでした。利用者の様子をよく知る介護福祉士(ヘルパー・施設職員等)が利用者や環境の変化に気づき上司や同僚に報告をしていくことの重要性が見えました。平成18年度からは「高齢者虐待防止法」が施行され、通報義務が明記されています。虐待を発見するトレーニングも介護福祉士には必要になってきています。その反面、職員が虐待するケースもあります。介護福祉士の質が問われるようになってきています。

研修参加者との懇談のなかでも虐待と感じたケースをもっている参加者もいました。高齢者虐待は身近な問題のように感じました。介護福祉士は虐待の発見者にも、虐待者にも成りうる可能性があります。介護福祉士の質の向上が必要だと感じた研修会でした。

(東葛ブロック長 堀越悦雄)

千葉ブロック研修報告 6月16日(土)救急法の研修に参加して

午後からの研修で睡魔に襲われるかと思いきや、テキストを見ながら歯切れのよい解説、時には笑いも混ぜてわかりやすく教えていただき、すっかり目が覚めました。いつ来るかわからない緊急事態、いつも無事でいられたらこんなに嬉しいことはありませんが、やはり万が一の時を考え覚えておくことは重要だと思います。

実技では、現在新聞やニュースなどで広く伝えられるようになったAED(自動体外式除細動器)を用いながら心肺蘇生法を行いました。汗をかき々思った以上に体力が必要でした。改正前は15回の心臓マッサージだったものが今は30回になり、2回の人工呼吸と合わせて1サイクルとしますが、数えながら行うことに皆一生懸命でした。2サイクル過ぎるとだんだん疲れが出てきて、「これは大変だー。私には助けられるだろうか・・・」と痛感しました。しかし、AEDが来るまでの間は何かして繋げておかななくてはならないと思うと、この救命処置というのは一人では出来ない、協力者が必要だということも実感できました。それから、助ける前に周囲の状況を観察すること、自分自身の安全を確保して二次災害を防ぐことが大切だということもよくわかりました。誰でも緊急時は慌てるものですが、研修を受けたことで少しでも冷静になれ、適切な判断が出来るようになりたいものです。

他に異物が詰まった時の除去の方法、傷病者の保温、起こし方、回復体位などどれも役に立つことばかりでした。最後の実技と筆記の試験は、疲れた体と頭でどこまで出来たのか? ちょっぴり不安ですが、とても内容の濃い研修でした。

多くの方がAEDの使い方を知って、一人でも多くの命が救われることを願ってやみません。日赤の指導員の皆様、御指導ありがとうございました。(千葉ブロック 梶原 尚美)

君津ブロック 第1回研修会報告

君津ブロックでは、去る6月23日(土)君津市八重原公民館に於いて「これからの認知症ケア センター方式を基本から学ぼう」と題して、当会の理事でありセンター方式地域推進委員である村越洋子氏を講師に招いて研修会を開催しました。

参加者は定員を超える 会員 43名、一般 8名でした。講師の認知症ケアの強い思いと分かりやすい講義で参加者一同充実感をもって帰路につきました。

「勉強すればするほど自分の未熟を実感しています。もっと講義を聴きたかった」の感想が聞こえてきました。(、 記)

ブロック研修会ご案内

■千葉ブロック

(1)「介護技術全般(持ち上げない移動の方法 他)」

日時 平成19年9月29日(土) 午後1時~5時(受付12時30分より)

会場 千葉県社会福祉センター 5F 中研修室

定員 40名

参加費 会員・準会員 300円 一般 2000円

(2)秋の施設見学と交流会

日時 平成19年11月1日(木) 午前10時20分集合

場所 「グッドタイムリビング千葉みなと/海岸通/駅前通」

定員 30名(会員・準会員のみ)

参加費 500円(昼食付)

■東葛ブロック

「認知症と精神疾患について」

日時 平成19年10月21日(日)

午前9時30分~午後12時

会場 勤労市民センター(船橋市)

講師 精神保健福祉士・臨床心理士

道塚 喜美雄氏

参加費 会員・準会員 500円

一般 1500円

■東部ブロック

「利用者の能力を生かした介護方法」

日時 平成10月21日(日) 午前10時~午後3時

会場 香取市佐原中央公民館 3F

講師 山本 英清氏(千葉県介護福祉士会 会長)

参加費 500円(昼食代) 会員外は1000円(昼食代+研修代)

■南部ブロック

「癒しのケアを体感しよう」

日時 平成19年10月13日(土)

午前10時~午後3時

会場 共同生活舎こだま

定員 20名

参加費 会員 1000円(昼食代含む)

お問い合わせは
千葉県介護福祉士会事務局
043 - 248 - 1451

理事会報告

- 18年度第9回 2月25日(日)
出席者 10名 委任状 10名
- 第10回 3月10日(土)
出席者 15名 委任状 3名
- 19年度第1回 4月14日(土)
出席者 16名 委任状 7名
- 第2回 4月22日(日)
出席者 18名 委任状 2名
- 第3回 6月10日(日)
出席者 19名 委任状 3名
- 第4回 7月8日(日)
出席者 19名 委任状 5名

現在の会員数

7月16日現在

880名 (入金) 499名

正会員

千葉ブロック	328名 (〃)	184名
君津ブロック	113名 (〃)	72名
東部ブロック	120名 (〃)	53名
南部ブロック	71名 (〃)	50名
東葛ブロック	248名 (〃)	140名
準会員	84名 (〃)	37名

新会員紹介 正会員で同意された方のみ 敬称略 順不同

齋藤 留美(千葉) 吉原 露美(東部) 金坂 千賀子(南部)

堀江 玲子(南部) 鈴木 かおり(千葉) 天笠 寛(君津) 村形 ユニ(東葛)

東 全隆(東葛) 阿藤 浩子(君津) 西川 富行(東葛) 三澤 好美(千葉)

佐野 眞美(千葉) 細田 秋子(君津) 小松 奈津恵(千葉)

庄司 聖子(東葛) 鳥生 新(千葉) 茂木 いく子(千葉) 三浦 奈美(東部)

坂本 サチ子(千葉) 篠原 夏代子(千葉) 本間 優子(千葉) 関 今日子(南部)

高橋 ユミ子(東葛) 青柳 妙子(東部) 安部 幹子(東葛)

前嶋 綾子(千葉) 伊藤 由利子(東部) 楢野 名奈子(千葉) 大西 悦子(東葛)

井上 弘美(東葛) 米田 ゆう子(東葛) 結城 康博(東葛)

畑井田 典子(千葉) 須原 榮子(千葉) 川合 テルヨ(千葉) 古野 和枝(千葉)

岩見 奈美(東葛) 堀松 まゆみ(千葉) 芝崎 清子(千葉)

石井 純代(南部) 渡辺 圭子(南部) 高橋 一哉(君津) 堤 和子(君津)

() 内はブロック名です。

7月16日現在

登録番号が未だに連絡がない方がいます。会員証の手続きが出来ませんのでお知らせ下さい。尚、会員証発行まで多少の時間がかかりますこと御了承下さい。

編集後記

秋の風が吹いたかなと思っても、まだまだ残暑が続いております。季節の変わり目は体調を崩しやすく、健康管理には注意したいものです。食欲の秋に向かって・・・

にじの発行が遅くなりまして申し訳ありませんでした。(池田)